様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １５ 日現在

機関番号：３３９３１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１８２２５

研究課題名（和文）平安・鎌倉時代の絵巻物における宮廷装束の基礎的研究

研究課題名（英文）A basic research on court costumes for picture scrolls in the Heian and Kamakura eras

研究代表者
畠山　大二郎（Hatakeyama, Daijiroh）

愛知文教大学・人文学部・准教授

研究者番号：４０７８４４３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、平安時代から鎌倉時代の絵巻物を解析することにより、宮廷装束とその周辺文化の有り様を明らかにしようと試みたものである。国宝『源氏物語絵巻』および『紫式部日記絵巻』を中心に、絵巻の中に描かれている装束・調度をつぶさにデータベース化した。
　これにより、平安時代～鎌倉時代の装束・調度が、現在考えられているものとは異なる形状や仕様であったことが何点か確認できた。また、このデータベースを活用することにより、新たな疑問や解明がなされるものと考えられる。平安時代・鎌倉時代における装束の着用方法についても、現代とは異なることがより明らかになるだろう。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　平安時代末期に成立したとされる『源氏物語絵巻』と、鎌倉時代に成立した『紫式部日記絵巻』の絵に何が描かれているのかを文字化し、データベースにしたものである。これまで画面に描かれたものの説明は幾度かなされてきてはいるが、詳細にその内容を文字として抽出した結果、新しい発見をすることができた。現在考えられている宮廷装束のルールとは異なったものがいくつも見られ、平安時代から鎌倉時代にかけての宮廷装束を考える上で、新材料となると思われる。本研究成果のデータベースを用いることにより、本研究が時代や分野を超えて、今後の研究に幅広く貢献することが期待される。

研究成果の概要（英文）：This research attempts to clarify the state of the court costume and its surrounding culture by analyzing picture scrolls from the Heian period to the Kamakura period.
Mainly on the national treasure "Genji Monogatari Emaki" and "Murasakishikibu Nikki Emaki", we made a database of the costumes and furnishings depicted in the emaki.
From this, we were able to confirm some points that the costumes and furnishings from the Heian era to the Kamakura era had different shapes and specifications from those currently considered. In addition, by utilizing this database, new questions and clarifications will be made. It will be clear that the way of wearing costumes during the Heian and Kamakura eras is also different from the present.

研究分野：平安文学　有職故実　日本服飾史

キーワード：平安文学　有職故実　日本服飾史　日本絵画史　絵巻物　宮廷装束

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

申請者は 2006 年より、平安文学における服飾のあり方について研究を進めてきた。同時に、2001 年より装束を実際に扱い、現代に伝わる装束の着装法を学んだ。実物に触れることで装束の構造やその造形を理解し、装束の裁縫を自ら行うに至った。文学における服飾描写の意味を、文学作品の読解や平安装束の復元などの新たな視点から考察し、研究成果を著書『平安朝の文学と装束』（新典社、2016 年）の形でまとめた。本書は、実感実証の読解という独創性のある研究手法であることが認められ、他方面の研究にも寄与するものとして、第五回池田亀鑑賞を受賞した。申請者は、これまでの研究をまとめていく中で、服飾描写の解明は、文学だけではなく、幅広い研究分野を往還する大きな問題であることを確信した。

服飾は、人間生活の基本である衣食住の一つである。しかし、平安時代から鎌倉時代にかけての宮廷装束には、未だ謎の部分が多い。近年刊行された平安文学の注釈書を見ても、以前の注釈を踏襲したにすぎない注や「未詳」とするものがいくつもある。こうした未解明の部分を少しでも明らかにしようというのが、本研究の目的である。未だ解明されていない部分でも、用例や故実書などからその実態を明らかにすることができるものがある。

こうした問題を解明する手がかりとして非常に有効と思われるのが、絵画資料である。絵画資料は、当時の服飾の有り様を端的に示している。これまで絵画資料によって新事実が判明したケースが何件もある。本研究による取り組みでは、この絵画資料を索引という分類した形に変換するため、各研究分野に資するところが大きい。

申請者は 2012 年に国文学研究資料館蔵の『源氏物語団扇画帖』を用い、「服飾関係索引」を作成したことがある。描かれる人物の服飾を、一人一人文字情報に変換していき、全五四帖についてデータ化を成し遂げることができた。国文学研究資料館蔵『源氏物語団扇画帖』は、一七世紀後半の江戸時代前期成立とされ、平安時代の服飾と江戸時代の絵画とでは、異なる点や不正確な点も多かったが、当時の画家がいかに平安時代の服飾を描き、どの程度理解し、どのような認識であったのかが明らかとなった。また、この取り組みに対する期待の声も多くあった。

絵画資料に描かれたモノを解析し、分類したものとしては、澁沢敬三『絵巻物による日本常民生活絵引』（平凡社、新版、1984 年）がある。絵巻物を歴史資料としてではなく民俗資料として扱った画期的な研究である。内容は、絵巻物に描かれるさまざまな階層の人々について、その生活を民俗資料的に解説したものである。そのためか、貴族の生活を中心に描いた絵画資料は対象になっていない。したがって、貴族文化を中心とした絵画資料におけるモノの解析はいまだなされていないことになる。申請者は、ここに着想を得た。

本研究では、日本宮廷文化が発展をみせた平安時代から鎌倉時代成立の絵画資料に対象を定め、詳細な調査によって装束に関わる基礎データ作成を行う。これにより、中世前期の宮廷装束に関わる飛躍的な研究進展が可能となる。

２．研究の目的

本研究は、平安時代から鎌倉時代の絵巻物を解析することにより、宮廷装束とその周辺文化の有り様を明らかにする。当該年代の服飾には、未解決の部分が多く研究余地が残されている。絵画資料を主軸とし文献資料の補完によって、文学や被服学・美術史学・日本史学など多分野にわたる研究の基礎データ作成を目的とする。

⑴ 国宝『源氏物語絵巻』における服飾目録の基礎データ作成
⑵『紫式部日記絵巻』における服飾目録の基礎データ作成

３．研究の方法

平安時代から鎌倉時代にかけて成立した絵画資料における服飾目録基礎データ作成を行った。作品は以下の二作品である。

⑴国宝『源氏物語絵巻』（平安時代末期、徳川黎明会蔵・五島美術館蔵・東京国立博物館蔵）
・徳川美術館…絵十五面と詞書二八面（蓬生、関屋、絵合（詞書のみ）、柏木（三段）、横笛、竹河（二段）、橋姫、早蕨、宿木（三段）、東屋（二段））
・五島美術館…絵四面と詞書九面（鈴虫（二段）、夕霧、御法）
・東京国立博物館…絵一面（若紫断簡）
　以上の現存する絵二〇画面についてデータベース化を行った。

⑵『紫式部日記絵巻』（鎌倉時代、藤田美術館蔵・五島美術館蔵・個人蔵・東京国立博物館蔵）
・蜂須賀家旧蔵本…絵八面と詞書七面
・藤田美術館本…絵五面と詞書五面
・五島美術館本…絵三面と詞書三面
・森川家本…絵一面と詞書一面

・日野原家本…絵六面と詞書六面
・東京国立博物館本…絵一面詞書一面
　以上の現存する絵二四画面についてデータベース化を行った。

　作品内に描かれた服飾について、服装名（全体の構成）・個々の衣服と装身具についての情報（色・文様・素材・加工方法など）を一つ一つデータ化した。服飾の部位（紐、袖など）についても、特筆すべきものは項目を作り、取り上げた。判別しかねるものについては、無理に判断せず、その旨を明記した。人物が着用していない衣服・装身具も対象とした。建具や内装の「装束」全般についても対象とした。

４．研究成果

　二つの絵巻物、計四四画面についてのデータベース化を行った。
　詳細に一つ一つの情報を観察することにより、今まで指摘されてこなかった新たな発見がいくつも見受けられた。現在知られている装束類についても、古様の形状や着用方法が描かれていることが明らかとなった。また、データベース化することにより、よく描かれている文様や色などの検索が可能となった。
　本研究により、今後明らかになると思われる事例を以下に示す。

⑴古様の几帳の形状
現行の几帳とは、帳の固定の仕方が異なる。野筋や上差の機能の違いがある。
⑵冬直衣袍の仕立て
襟・両袖・襴を白で描き、それ以外の部分を薄浅葱に描く四つ白とそうでない二種が混在している。
⑶女袴の色・文様
有職故実にはない女袴の仕様が確認できた。再検討が求められる。
⑷畳の縁の文様
現行の畳にはない文様が確認できた。使用状況を整理する必要がある。
⑸女性の重ね着状況
衣の重ねかたや仕立て方において、疑問の点も残った。これは遺品や故実書、古記録との照合により立体的な理解が深まるであろう。

　以上の他にも、新たな知見があり、本研究が時代や分野を超えて、今後の研究に幅広く貢献することが期待される。また、本研究によって、より正確な装束の実態を把握することが可能となり、より忠実な復元が可能となること期待する。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 畠山大二郎	４．巻 21
２．論文標題 国宝『源氏物語絵巻』装束データベース	５．発行年 2018年
３．雑誌名 愛知文教大学論叢	６．最初と最後の頁 1（136）～19（118）
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 畠山大二郎
２．発表標題 『紫式部日記絵巻』における装束描写
３．学会等名 絵巻物装束研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 畠山大二郎
２．発表標題 国宝『源氏物語絵巻』における装束
３．学会等名 國學院大學國文學會
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考